

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	実習 3 Rec専攻	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	レコーディングエンジニア専攻	開設期	前期
対象年次	2 年次	科目区分	必修	時間数	180時間
単位数	6単位			授業形態	実習演習
教科書/教材	参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	倉本 淳二・伊藤 優子・篠原 麻梨			実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア
学習目的					
レコーディングエンジニアとして必要な知識の再確認し、さらには詳細について掘り下げ理解していくことを目的とする。基本的には演習と連動した項目をスタジオにて実践していく。。エンジニアリングの目的は良い音である。良い音とは何か、自分で発見し、体験して行く事がなければ、形式だけの音となってしまうので、可能な限りのマイクの取扱方法に熟知し、楽器側の状態も考慮に入れた音作りが出来るようになることが大事である。また、音を言葉で解説する力も身につける。					
到達目標					
演習で学んだ下地を元的確なエンジニアリングが出来るようになる。実習Aのレコーディングの音作りを掘り下げていく。マイクロフォンの名称から各種特性を覚え、楽器やアーティストごとに適切なマイク選びができるようになる。クライアントの細かい注文にも対応できるよう、わずかの音の差にも気づき処理出来るようになる。また仕事全体の流れを円滑にできるよう、アーティストの意思を先読みし、コミュニケーションが適切に取れるようになることも目標である。					
教育方法等					
授業概要	必要に応じてプリント資料を適時配布する。アーティストに来校してもらい実習する際はアーティストの立場や作りたい音をよく考え、アーティストに信頼されるエンジニアになるための態度も学ぶ。				
注意点	学生が主体的に行動するが、注意点や修正箇所があればその度指示する。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題				
	小テスト				
	レポート				
	成果発表 (口頭・実技)				
	平常点	100%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	4リズムセッティング練習		指定された録音準備が迅速かつ正確にできるようになる		
2 回	スタジオシステムB		パッチベイや、D-Commandのモニターセクションを理解する		
3 回	スタジオシステムC		SSLにおける、全てのルーティングパターンを理解する		
4 回	エフェクター実習		普段よく使うエフェクターに限り、それらのパラメータや操作を理解する		
5 回	マイキング研究リハーサル		各班セッティングをやってみて、プランの確認をする		
6 回	マイキング研究Apf		最初のプランから始め、要望に応じてセッティングを変化させる		
7 回	マイキング研究Drums		最初のプランから始め、要望に応じてセッティングを変化させる		
8 回	マイキング研究VoAG		最初のプランから始め、要望に応じてセッティングを変化させる		
9 回	アーティスト制作プロジェクト①		制作者の意図に沿った作品を共同で収録する		
1 0 回	ミックス実習		マイキング研究で収録したデータをもとに、ミックスの技法を学ぶ		
1 1 回	マイキング研究Sax		最初のプランから始め、要望に応じてセッティングを変化させる		
1 2 回	アーティスト制作プロジェクト②		制作者の意図に沿った作品を共同で収録する		
1 3 回	アナログテープレコーダー		テープのローディングや手切り編集ができるようになる		
1 4 回	アーティスト制作プロジェクト③		制作者の意図に沿った作品を共同で収録する		
1 5 回	記録作品制作		アーティスト制作プロジェクトの記録をまとめ、映像作品を制作する		